

なかつか 亮



品川区議会 決算特別委員会 開催中 No.2

「昨年、超える勢い」 区内中小企業倒産件数

品川区議会では決算特別委員会が開催中。15日は総括質疑が行われ、21日は最終本会議。前回号に続き、共産党が取り上げたテーマのうち「中小企業対策」「年越し派遣村」を紹介します。

もう限界

日本の「もの作り」を支えてきた中小企業が危機的状態です。国際競争力の号令で、多くの仕事は人件費の安い海外に進出。国内産業の空洞化が加速しました。貸し渋りや貸しはがし、下請け単価の切り下げは「ものづくり」を土台から崩し、原油・原材料高騰が追い打ち。「もう限界！」と悲鳴が挙がっています。

区内建設4組合のアンケートでも95%が「生活が厳しい」と回答。「生きるか死ぬか」との切実な声が上がっています。

倒産、すでに81件

区内中小企業の倒産件数は今年8月時点で81件。昨年を上回るペース。共産党

は町工場等の実態を示し「貸し工場の家賃や固定費補助など実質的な休業補償にあたる対策を実施すべき」と提案。

品川区は「各種施策は総合的に実施。現金給付となる補助金制度の予定はない」旨の答弁をしました。

仕事さえくれば工場がもたない



区内中小企業倒産件数

H18年度	75件
H19年度	83件
H20年度	85件
H21年度 8月まで	81件

「派遣村」の事態を

繰り返すな

雇用危機

全国で完全失業率は361万人。今年12月末までに仕事を失う非正規雇用は24万人。戦後最悪の雇用危機がくらしを襲っています。

「派遣切り」で、仕事と同時に住む家を失う「ネットカフェ難民」の拡大。このままでは「年越し派遣村」の事態が繰り返されるのではと心配の声が挙がっています。

生存権奪う事態は直ちに正さなければなりません。

世田谷寮を視察

共産党は10月3日に「緊急一時保護センター 世田谷寮」を視察しました。

世田谷寮とは23区と東京都が共同実施する路上生活者緊急一時保護事業の施設のこと。定員は百名で、路上生活から脱出するための最初のステップとなる緊急シェルターです。

現地にて施設長から「最近では若者の入所が増えている」「施設利用者の6割が路上生活期間が半年未満」等の報告を

受け「施設はいっぱい状態。今後の対応が課題」と話します。

共産党は区議会で状況を報告し、「現状のままでは、年越し派遣村の状態が繰り返される心配がある。緊急シェルター確保、雇用や住宅支

援が必要」と主張。品川区は「新たに住宅手当も始まる。どちらにしても広域的な事業だ」旨の答弁をしました。

共産党はくらし、福祉を守るため、引き続きがんばります。なかつか亮

世田谷寮 入所年齢状況 (今年4月～9月)

29才以下	6%
30代	17%
40代	27%
50代	34%
60代	14%
70才以上	1%

施設の利用率は9割を超え、東京都も「直ちに入所できない場合がある」「受入能力は限界に近づきつつある」と指摘している。

次回の「気軽な町の無料法律相談会」のお知らせ

11月6日(金) 午後6時～8時 場所：日本共産党なかつか亮事務所
弁護士と一緒に相談会を行います。生活のこと法律のこと、お気軽にご相談ください
連絡先 昼：区議控室 **5742-6818** 夜：事務所 **3773-3231**
急なご相談やお困りごとなどは、いつでもご連絡下さい。まずは気軽にお電話を。